学校番号	1206

令和８年度　教養科

教科	学 教養	科目	社会福祉入門	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	福祉 701「社会福祉基礎」　（実教出版） ふくしのしごとがわかる本　2026 年版　～福祉の仕事と就職活動ガイド～ （東京都社会福祉協議会）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会の中で起きていることや身近な問題などを題材に社会福祉的視点で考える授業をおこないます。
また、社会福祉施設で行われる季節の行事を皆さんにも体験してもらう授業も取り入れます。

講義方式の授業のほか、生徒の皆さんとのコミュニケーションやグループワークを多く取り入れますので、皆さんが日ごろ感じていることや考えていることなどを担当教員へ自発的に伝えてください。

そのような日ごろの授業の繰り返しから、福祉現場で使うコミュニケーション技術や相談援助技術を習得し、卒業してからも活かせるようなものを身につけて欲しいと願っています。

配布する授業プリント等に補足等を書き込むような形でノートを取るようにし、プリントを綴じたファイルは紛失しないように注意してください。（定期的に提出確認などをおこないます）

授業では、出席や皆さんの理解度を確認するために、小さな課題などを随時おこないます。
この課題を繰り返すことから、伝える技術も少しずつ身につけられることを期待しています。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
福祉的援助の理論や実践、福祉サービスについて理解できる。
【思考力、判断力、表現力等】
社会福祉の諸問題について、普段の生活や自らの考えと結びつけ、ワーク等を通して表現することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
ソーシャルワークという観点を持ち、主体的に現代社会を考察する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

観点の趣旨	社会福祉の実践において必要な知識について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術等をみにつけている。	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、支援者としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	オリエンテーション 生活と福祉 家族と働き方の変化 人の一生と社会福祉	少子高齢化社会と日本 国民の健康づくりと保健衛生 疾病構造と生活習慣病 ライフサイクルの変化について	a:少子高齢化に伴う家族や社会の変化を理解できる。 b:生活習慣病や健康づくりについて考えることが出来る。 c:授業や課題に対し、主体的に取り組もうとしている。	定期考査 課題物	グループワーク ワークシート等	プリント 授業観察
	社会福祉の理念 性的マイノリティ問題と人権問題 障がい者の暮らし 障がい者福祉サービス 障がいを持つ人とのコミュニケーション方法	日本国憲法と社会福祉 社会福祉に関する法制度 性的マイノリティ等の社会問題 社会福祉的に見た「人権」 障がい者手帳や福祉サービス 障がいを持つ人の暮らし 障がいを持つ人とのコミュニケーション方法	a:社会福祉に関する法制度や障がい者手帳サービスについて理解できる。 b:福祉に関する法制度や人権問題について考え伝えられる。 c:授業や課題に対し、主体的に取り組もうとしている。	定期考査 課題物	グループワーク 障がい者のコミュニケーション方法の理解度 ワークシート等	プリント 授業観察

後期	子ども家庭福祉と非行少年の処遇 高齢者の暮らしと介護 地域福祉の考え方 社会福祉援助技術とは 社会資源の活用方法	非行少年と少年事件問題 児童福祉法と少年法の関係 保育所と認定こども園について 高齢者福祉の全体像と暮らし 介護に関することや諸問題 地域福祉サービスの考え方 ソーシャルワーク理論と対人援助システムと諸外国の福祉理念 社会福祉問題を社会資源の活用方法から解決する仕組み	a:各種手続きと法制度の関係、および社会資源の活用法について理解できる。 b:授業で扱う事例を福祉問題として考察できる。 c:授業や課題に対し、主体的に取り組もうとしている。	定期考査 課題物	グループワーク ワークシート等	プリント 授業観察
	福祉関係の仕事 生活の中の福祉 ボランティアとNPO セルフヘルプグループと、その実際 1年間のふりかえり	様々な福祉専門職の倫理観 社会福祉の仕事と内容 暮らしの中の福祉と自己覚知 ボランティアやNPOについて ボランティアプログラムづくり セルフヘルプグループや人間力学的な支援のあり方について 社会福祉の未来像について	a:社会福祉の職種を覚えるだけはなく、生活や人の暮らしが社会福祉の考え方と密接な関係であることを理解できる。 b:授業で扱う事例を社会問題的に考察し、自ら表現することができる。 c:授業や課題に対し、主体的に取り組もうとしている。	定期考査 課題物	グループワーク ワークシート等	プリント 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度